

令和2年度 千曲市総合教育会議 議事録（要約）

1. 日 時

令和2年12月22日（火） 午後3時30時から午後4時30分

2. 場 所

千曲市役所 301会議室

3. 会議日程

- (1) 開会
- (2) 市長あいさつ
- (3) 会議事項
- (4) 閉会

4. 議 題

- (1) GIGA スクール構想について
- (2) 部活動の指導について
- (3) その他

5. 出席者

市長	小川 修一		
教育長	小松 信美		
教育長職務代理者	若林 由美子		
教育委員	坂本 孝夫		
教育委員	中村 洋一		
教育委員	宮入 文雄		
教育委員	松田 祐子		
教育部長	滝沢 裕一		
教育総務課長	高野 昌一		
教育総務課	柳嶋 幸孝	伊藤 和也	野口 考一
企画政策部長	竹内 司		
総合政策課長	洞田 英樹		
総合政策課	唐木田 義明	宮下 真人	

6. 議事

1. 開会（進行：竹内企画政策部長）

2. 市長あいさつ

（小川市長）

令和2年度千曲市総合教育会議の開会にあたり、ひとことご挨拶申し上げます。

今回は、「GIGA スクール構想」と「部活動の指導について」の二つを議題として取り上げます。

GIGA スクール構想につきましては、今年度に Wi-Fi 環境の整備などのハード事業を実施しました。

新型コロナウイルス感染症の広がりを受け、リモート学習の重要性も増しており、教育格差をなくすためにも一層の推進が必要と考えております。

また、部活動の指導については、教職員の働き方改革という観点からも非常に重要であると考えております。

教育に関する問題に対しては、市長部局と教育委員会の双方で確認し、一体となって取り組んでいく必要があります。

本日は、委員の皆様と活発な議論をさせていただきたいと考えていますので、よろしくお願ひ致します。

以上、簡単ではありますが、開会に際しての挨拶と致します。

3. 会議事項（進行：小川市長）

（1）GIGA スクール構想について

○高野教育総務課長より説明

（宮入教育委員）

オンライン授業の役割は非常に大事だと思っている。ただ、学校の役割として、対面で授業をすることで、子ども同士の考えが伸び合い、授業が深まる。また、一緒に学校生活を送ることで社会性を育んだり、お互いの成長を促すことになる。

オンライン授業で置き去りになること、個人差、家庭環境により格差を出さないことに注意を払う必要がある。

オンライン授業と対面での授業を組み合わせる方法を工夫することが、これからは大事となってくると思う。

（小松教育長）

宮入委員のご指摘はごもっとも。個人的にも対面授業は子どもと先生の間を作っていく上で、なくてはならないものだと思っている。

今回の GIGA スクール構想は、日常の授業の中に上手く ICT を活用していくもの。どの様に活用

していくかは、実施する中で先生方に獲得して欲しいと思っている。

試行錯誤しながら、先生の個性や子ども達の様子に合わせて進めていく中で、最終的に授業の改善に繋がり、子ども達の学力の定着に繋がれば良いと思っている。

文科省では ICT を活用することで、一人も取り残さない教育ができると言っている。使いながら、個人学習をどんどん進める状況にまで皆が高まっていくようにすることが大事。

全体学習と個人学習のバランスを上手くとっていくことが重要と考えている。

(中村教育委員)

この構想の課題として、インターネットへのアクセス集中がある。

どんなに大きな回線を使っても、一度にアクセスすればどうしてもボトルネックになってしまう。

また、キーボードでのタイピングを教える場合、ローマ字入力を教えるとすれば小学校三年生まではローマ字の学習がないため教えることができない。これまでの系統立った学習と GIGA スクール構想の前倒しには齟齬が生じてくる。

ただ、個人的にはそういう困った時にどうするか、上手くいかない時にどうするかを考えることも良いと思っている。

校内の複数のクラスで、それぞれ何をやったかなどの疑似的なプレゼンテーションも一つの経験になるし、他の学校とレポートし合うなど、インターネットを経由せずにできることもあると思うので、面白そうなことに現場で取り組むのが一番良いのでは。

森のあんずの実況中継を娯楽ですすることで、観光客に森へも行ってみたいと思わせるようなことも工夫次第でできる。

インターネットのみに頼らず、市のイントラネットを使うなど、現場で可能性や方向性を検討し合うのが良いのでは。

(宮入教育委員)

長野市の教育委員会では、個別学習や授業の支援機能がついた学習ソフトの導入を考えている。

千曲市でもそういったソフトの導入計画はあるか。

(高野教育総務課長)

学習コンテンツは色々あるが、現在 ICT 推進委員会の中で検討している。

(若林教育長職務代理者)

GIGA スクール構想の中で、これまで学校に来れなかった子ども達や、多様性を持った子ども達も ICT で繋がるができるが、そういった所を見逃さないためには、先生方の努力は並大抵ではないと思う。

ただ、「やってみる」「繋がってみる」という第一歩が大事だと思う。

また、世界と繋がるができるので、先生たちのこれまでの経験以外で、世界で活躍する方の話を聞くなど、際限なく繋がるができる。

ICT に対して臆病にならず、一歩ずつやってみることが大事だと思う。

新型コロナウイルスのこともあり学校に行けない状況で、学校と個人が繋がれる分野も進めて

いけたら良いと考える。

(小松教育長)

若林委員の「まずやってみる」という考え方は大事だと思う。

不登校生への対応も、今後端末の貸し出しなどで、実際の授業を家で見ることができるといったことも考えられる。

今年の4月に緊急事態宣言が出て休校となった際、自治体によっては実際にタブレットを家で使ってみた所があった。一方で、機器はあるがセキュリティの問題などで使用を控えた自治体もあった。

千曲市でも ZOOM を利用して授業をしたいという声があったが、やはりセキュリティの問題を考慮してストップをかけた。

全国ではそれを乗り越えて実施した所もあったので、千曲市でも実施していれば、少しは先生方の肩の荷が降りたのではないかと反省している。

これから一人一台の端末が入った時に、まず教室でやってみる、恐れずやってみることを進めていって欲しいと考えている。

(坂本教育委員)

GIGA の G は Global、I は Innovation、(Gateway) for All だが、10 年ほど前から企業では DX という言葉がある。

DX はデジタルトランスフォーメーションの意味でスウェーデン発祥の言葉。

この DX は GIGA スクール構想と同じことで、IOT を利用してビジネスの質を高めていくものだが、DX には「2025 年の崖」という言葉がある。これは、2025 年までにデジタル環境を整えないと会社は商売ができなくなるといったことで、そのために企業は色々な対応をしている。

つまり学校は企業から 10 年遅れでデジタル化を始めるということ。やらなければならないことではあるが、始めるに当たってはリスクシナリオを考えておく必要がある。

子どもの側からこのリスクシナリオを考える場合、今は一年生の頃からゲーム機やタブレットを使っているため、その中で学校端末の存在感をどうやって出すかを考えることが必要。それができなければ、大きなリスクシナリオとなる。

企業はデジタル化を 10 年以上続けているが、2025 年という期限がある。学校はこれから始めるので、企業のレベルまでには 15 年以上かかると思っている。こういったスタート段階でリスクシナリオを考えておく必要がある。

ゲーム機と学校端末を比べると、ゲーム機の方が面白いし、将来役に立つ。また、子どもは毎日触れるもので視座を養う。そうなれば子どもはゲーム機を選ぶので、それに対して何かひとこと言えるようにしなければこの構想は先に進まないと思う。

(小松教育長)

企業並みと言わず、学校の段階では子ども達がタブレットを使って自分の調べたいことを調べる程度で良いのでは。

使用していく中で問題はその時々で解決していく。教育委員会では 5 年スパンで段階を踏んで

進めていく予定でいる。

(坂本教育委員)

先ほどの子ども達の側からのリスクシナリオについてもう一点話したい。

学校端末で子ども達に何を教えるか。学習アプリを重視するのか、オフィスソフトを使うことを重視するのか。すべてを教えることはできない。

また、学習アプリにはお金もかかるため、学習内容を網羅するまで揃えることはできない。

こういったリスクを認識して子ども達に対応する必要がある。

(小松教育長)

学習用アプリについてはこれからデジタル教科書など、国でも考えていると思う。

端末に入れるソフトは自治体によって違うが、千曲市では ICT 委員会で「千曲市の子ども達」に一番良いものを検討している。

アプリとオフィスソフトの習熟の兼ね合いは難しいが、社会見学の作文や新聞づくりなどに利用して交互にやっつけていけば良いと考えている。

(宮入教育委員)

長野市で導入を検討しているソフトは、習熟度に合わせて AI がドリルを出題したり、児童が主体的に学ぶ力を育てる狙いがある。

また、授業時に子どもが考えをまとめたり、共有する機能が備わっていると聞いているが、そういったことも研究していく必要がある。

(中村教育委員)

一人一人の学習進度、学習能力に応じたソフトという話があった。

資料にはトリプル A ツール (活性化「Active」、最適化「Adaptive」、支援「Assistive」というキーワードが載っており、このうちの「Adaptive」が、個々の生徒の学習進度に対応したという意味になる。違う言い方をすれば「Tailor」で、体型に合った背広を作るということ。

日本の教育文化は、皆が同じ授業を一斉にやって、差が出ないようにするものだった。しかし、「Adaptive」が意味する所は、その学生に一番良い教材を与えるということ。そのため個々人の到達点が変わってくる。

「Adaptive test」というものがあるが、これは個々人に最適なテストを実施するもので、日本の教育文化とは異なる。教材会社はどんどん「Adaptive」を進めるが、現場がそれについていけないといった事態にならないようにするために、何を共通とし、何を「Adaptive」するのか、これから現場と共有していくことが重要だと思う。

(小松教育長)

GIGA スクール構想を進める上で、家庭でインターネット環境が整っていない児童、生徒への支援を検討して行く必要がある。

教育委員会で家庭のインターネット環境の調査を実施したが、4月の段階では無線 LAN がある

家庭は5割だったのに対し、11月の調査では95%の家庭で利用可能という結果が出た。

しかし、今後休校などで実際に端末を持ち帰る場合に、こうした環境の整っていない家庭が利用できるように、公民館などの公共施設でWi-Fiを整備してもらえればと思う。

それが難しい場合は、学校に来てもらって、密にならないように配慮しながら進めていく必要がある。

いずれにしても将来的には、公共施設へ行けばインターネットが使える環境になれば、市民にとっても子ども達にとっても良いのではないかと思っている。

(小川市長)

インターネット環境が整っていない家庭への支援ということも含め、避難所でもある公共施設でのWi-Fi環境は整えなければいけないと思っているし、そうした方向で進めていく。

また学習アプリの話があったが、一人一人の習熟度を上げる効果を求めるのか、オフィスソフトの学習を進めるのか、どういう目的で進めるのかを共通の認識として持つ必要がある。

GIGA スクール構想という言葉だけ、タブレットの支給だけではなく、目的とその効果についてしっかりと共有し、整備していく必要があると思っている。

(2) 部活動の指導について

○野口教育総務課指導主事より説明

(若林教育長職務代理者)

部活動の地域移行は、働き方改革という意味でも大きいと思うが、問題となるのが指導者の人材発掘で、指導者がいなければ進めることができない。

現在、4校に5名の指導員がいるとのことだが、すべての部活に行き渡るには足りていない。

また、体育館など施設の環境整備も必要になる。人材と場所の環境整備を進めることが重要。

(宮入教育委員)

いかに人材を確保するかについてだが、岐阜県多治見市では指導員を保護者が行うといった取り組みをしている。

学校管理下における指導員は教員だが、中学校区単位でのジュニアクラブ活動として、保護者や地域の社会人の管理下で中学校のスポーツ活動を実施している。

クラブの代表者を生徒の保護者とし、指導者は代表者に任命された社会人となっている。

問題点もいくつかあるそうだが、一つの例として人材確保の参考とすべきでは。

(中村教育委員)

保護者や生徒がもっと部活をやりたいという意見があるのは分かるし、それが教育効果に繋がっていることも分かる。

ただ、先生方の働き方という観点からお金のことを考えると、保護者には伝わりにくい部分であるし、先生もあまりそのことには触れない。

実際、部活動の指導に対する手当はどの位出ているのか。

(野口教育総務課指導主事)

私が現場にいた当時の話ではあるが、土日4時間以上の指導で、一回につき2,400円だったと思う。

ただ平成26年に、県教委からスポーツ活動の活動指針が出ており、週二回は休養日を設けることや朝部活の原則禁止、保護者主体の延長の社会体育の禁止となった。これは、子ども達の健康状態を考えながら伸ばしていくための指針。

その時に、先生の延長部活の時間を調査しており、それに準じて予算が学校配当となった。そのため、指導時間に応じて手当が出るようになった。

(中村教育委員)

私が現場にいた頃よりは改善していると思う。当時は何時間指導をしても一日500円だった。

ただ、部活の指導をしている方は、お金が目的ではないと言ってくれるが、人材確保という点から考えて、とても指導をお願いする金額とは思えない。

専門家の時間を拘束することに見合った予算を現実的に付けることを考えるべき。

先生方の手当もそうだが、部活動指導員の待遇も改善する必要がある。アメリカでは学校の課外活動のコーチ業で生計を立てることができる。

今後地域へ部活動を移行していくのであれば、そういったことを検討する必要がある。

(坂本教育委員)

課題や困難はあるが、乗り越えて進めて欲しいと思っている。

ヨーロッパでは、どんな小さな町でも教会とスポーツクラブとオーケストラがあり、地域で作り、地域で大切にしている。

部活動の地域移行を目指す方向として、地域へアウトソーシングしてはどうかと考える。

市長が言う「ローカルファースト」とも密接に繋がると思うので、目指す所を見つけて対応していくべき。

「ある物探し」で進めて欲しい。

(小川市長)

地域へのアウトソーシングというご提案を頂いた。課題も多いがメリット、デメリットを検討して詰めていきたいと思っている。

市長に就任してから色々な方のお話を聞いているが、先ほどのGIGAスクール構想とも関連する所で、多様性を求める保護者の方、市民の方が比較的多い印象がある。

部活動を含め、今までの学校の画一的なやり方も、立ち止まって考える必要があるのではと感じている。

(若林教育長職務代理者)

授業も大事だが、そのあとの部活動に命を燃やしている子ども達も多いし、そういった先生も

中にはいると思う。

そのため、地域へ移行する際には学校と地域の指導者とのコミュニケーションが重要。

段階を経て移行していく中で、学校とは切れない子どもの存在を、大人のコミュニケーションでしっかりサポートしていくべきだと思う。

(3) その他について

(中村教育委員)

姨捨を始め、千曲の「月の文化」が日本遺産に認定された。地元民として、姨捨にお越しただいて活性化すればと考えているが、来てもらうためのコンテンツがまだ揃っていないというのが正直なところ。

姨捨にずっと住んでいる方からは、やや虚無感が感じられる。観光会館ができた時のように何年かすれば活動が小さくなってしまふのでは、一生懸命にやっても変わらないと考える方もいる。

今は色々なことが上向いていると思っているので、是非お力添えをいただき盛り上げて欲しい。

(小川市長)

これについては、日本遺産の認定を受け、協議会で進めていく。

千曲建設事務所もビューポイント整備について前向きに取り組んでいるところ。

市としても日本遺産の推進室といった司令塔となる組織を設置し、部局横断でいままでよりも機動的に進めていくつもりでいる。

地元の方の虚無感をなくす最大のチャンスだと思っているので、残念な思いをさせることがないように頑張っていく。

4. 閉会